

平成 20 年 9 月 27 日

中齋塾 秋季合同フォーラム基調講話 知足について

よくお出で下さいました。有難うございます。

中齋塾フォーラムは毎回最初に、嘘をついたか・つかなかったかをお聞きしています。初めて参加された方もどうぞ一緒にお考え戴きたいと存じます。

「昨日一日、嘘をつかなかったと思う方は手を挙げて下さい」

・・・有難うございます。沢山の方に手を挙げて戴きました。

もう一つお聞きします。私は夜寝る時に、必ず自分で「今日は一日良かったかな」と思って、良い日だったと確認して眠りにつきます。

「昨晚眠る時に、<今日一日良かったな・良い日だったな>と違って眠りについた方はおられますか」

・・・多くの方の手が挙がりました。有難うございました。

夜眠る時がポイントでございます。何でも良いですから、今日は良い日だったと思えるような事を思い出して、眠りにつかれるとよろしいと存じます。

今日この会場に入って、良い写真が沢山飾られていて嬉しくなりました。北関東フォーラム総務委員長の栗原幹事が撮った写真です。実に素晴らしい写真を撮られるので、一週間くらい写真展をされると良いと思うのですが、ご本人は謙虚でございまして、今日だけこの会場に飾って戴きました。論語に温・良・恭・俊・讓という文字があります。温（温和・穏やか）良（善良・すなお）恭（恭敬・うやうやしい）俊（俊約・つましい）讓（謙讓・控えめ）・・・全部には届かないと思いますが、謙讓の美德を發揮する人だと思います。

中齋塾フォーラムで、<嘘をつかない>という事を声高に申しますのは、あまりにも世の中、嘘をつき過ぎます。政治家の方に応援して下さいと頼まれますと、「あなたは舌は何枚ありますか」と質問するようにしています。そうしますと不思議なことに、皆さん真剣に考えるのです。よく考えて「一枚です」と答える方もいますし、間髪を入れず「政治家は二、三枚が当たり前です」と答える方もいます。どこかおかしくなっています。嘘を

ついて当たり前という（政治家でなく）政治屋さんが多い世の中は、この舌の話ひとつとってみても、やはり社会が歪んできたと感じます。非常に悲しいことだと思っています。

本日の講話のテーマは「知足について」です。

中斎塾フォーラムは、知足をベースに活動しています。足るを知る心を自分のものにしようと努力中です。足るを知る心が身に付いたならそうそう嘘はつかないし、ほどほどという考え方で生きていけるのではないかと思っています。

今、東京の湯島聖堂と群馬県太田市のシムックスという会社で、月に一回フォーラムを開催しています。この二箇所から、もう少し勉強したいという集まりが出てきましたら、だんだん各地へ集まりを広げていこうと思っています。ただ1週間に1回話をすれば十分だと思っていますので、それ以上はオーバーワークになりますから、常任理事はじめ中斎塾フォーラムの中には人材が相当おりますので、その方々にどんどん講師をバトンタッチすれば良いと思っています。

例えば、東京フォーラムの或る幹事は先日、中斎塾フォーラムでミャンマーのサイクロン被害者の寄付を集めました。お金を、ご自分でミャンマーの孤児院に届けて下さいました。途中で軍に没収されないように身体を張って頑張り通し、おととい帰国されたばかりです。そういう体験談を含めながら、お話し戴くこともよろしいでしょう。又、本日司会をされている北関東フォーラムの副代表幹事は、あちらこちらで話し方教室を主宰されておられます。

私共のベースは「足るを知る」です。そんなに難しい話ではありません。これをどんどん広げられれば良いと思って活動しております。この活動が少しずつ日本全国に広がると良いなと思っています。そして日本から世界に広がってゆけば、更に嬉しいなあと感じております。そんなに無理なことではないと感じますが、如何でしょうか。簡単そうだと思いますか。

質 問

皆さまにお聞きします。

美味しいものを食べるのはお好きですか？

レジメに質問を5つ書きました。

- 1．もっと食べたいと思ったら、口から出そうになるくらいまで食べますか？
- 2．もっと食べたいから、お腹の中にあるものを吐いて、もう一回食べますか？

中国で大昔の偉い人達は、もっと食べたいと思ったら、口に指を入れて中身を出して、お腹の中を空っぽにしてもう一回食べたという話があります。

- 3．もっと食べたいと思ったら、明日の分・明後日の分を別に確保しておきますか？
- 4．美味しく食べたいので、腹八分目でやめておきますか？
- 5．とっても美味しいので、他の人にも分けてあげますか？

何故こういう質問を書いたかと申しますと、足るを知るという心が自分の中にあるかないか自問自答して戴く時に、お使い戴くと良いと思って書きました。

私もかつては、食べたなという時には苦しくて動けなくなる迄食べていました。その頃は体重が 100 キロくらいありました。正座も出来ないし、苦しかったですね。今は 70 キロ代です。心が穏やかですと、腹七分目くらいで収めようと思うのですが、つい感情が高ぶっている時は食べてしまいますね。

足るを知る心とは、あまりむやみに食べない・がっつかない・腹六分目ですから、かなりスリムな体型になるでしょうし、メタボにもならないだろうと思います。

足るを知る心が身体の中に自然と入っていれば、何をやってもいいのではないのでしょうか。忠久先生にお聞きすると、朝の 4 時か 4 時半には起きられて、食べるものも非常に少ないそうです。確かにお昼時にお邪魔して拝見すると、紅茶とビスケットくらいしか召し上がりません。

この 5 つの質問は、足るを知るという事を考える時にお使い戴けると良ろしいと思って下さい。

先人の言葉

知足について、先人の言葉をご紹介します。

『老子』第 44 章にこんな言葉がございます。

名と身と孰れか親しき、身と貨と孰れか多れる、得ると亡うと孰れか病しき是の故に甚だ愛すれば必ず大いに費やす。多く蔵すれば必ず厚く亡う。足ることを知れば、辱めあらず。止まることを知れば、殆うからず。以て長久なる可し。

多く蔵すれば必ず厚く亡う・・・稼ぎに稼ぎまくって大金持ちになると、必ずそれにみ合って中身はなくなってしまう。

足ることを知れば、辱めあらず・・・ほどほどで満足知れば、ホリエモンだって捕まる

事はないだろうし、三笠フーズも汚染米をあれほどばら撒くことはなかったでしょう。

止まることを知れば、殆うからず。以て長久なる可し・・・人間の欲望があまりにも留めなく広がっているから、氣をつけましょうという部分です。

今、頷いておられる方は、自分の欲望があれもこれもあるのだという事を自覚しておられるからでしょう。

おのずから物事には限度があります。最近はその点便利です。おのずから限度があるという事を思い浮かべるものが沢山あります。お金が欲しい・もっと儲けたい・・・と欲が出た時には、自分がテレビの前で深々とお辞儀をする姿を想像すれば良いのです。偽装問題渦中の社長さん達が、ずらっとテレビに出ますでしょう。少し前は赤福や、白い恋人がありました。おやっと思ったのは、赤福や白い恋人と、船場吉兆とは少し意味が違ってきただと思います。それから今回の汚染米です。

どんどん露呈してくる人間のあくどさ加減は、最近のものになればなる程悪くなります。例えば白い恋人や赤福あたりは、謹慎が解けた時には、プレミアムがついて売れました。赤福は私も買いに行ってみましたが、本店は行列でした。

しかし船場吉兆に行って、誰かの食べ残しを食べるのは御免ですね。

三笠フーズに至ると、ちょっと酷すぎます。3円から9円くらいで買った米を、吹っ掛けて転売している。やはり何処か人間としての真っ当な道が歪んでしまって、崩れてしまったと思います。そういう人の顔は、良心の呵責に苛まれるので笑顔が出るわけがない。汚染米の流通先は日本中 390 社まで広がっていると云います。自分たちは汚染米など知らないで購入し、売ってしまったわけですから、これは酷い話です。明らかにこれは良くない事だと承知しながら売っていった三笠フーズは、まさに日本の中の偽装極まれりと云う会社だと感じます。

一転して日本以外の国を見てみますと、中国のメタミドホスがありました。私は名前を言えるようになってしまいました。「浸潤の譖と膚受の愬」という言葉がありますが、知らず知らず同じ事をずっと一貫して言われると、嫌でも自然と覚えます。メタミドホス、メラミン・・・何故こんな言葉を覚えるのだらうと思います。これも内容が変わりましたね。メタミドホスに関しては、どうもそんなに悪い事をしていないと思わなくて使っていた経緯があります。しかしメラミンは明らかに悪い事をしているという自覚のもとにやっているのではないかと思います。ご存知のようにメラミンは、乳幼児に飲ませる粉ミルクをあまりにも薄めてしまったから検査が通らないわけです。検査が通るように有害物質でも何でも入れてしまえ！ということで混入させた。全く酷い話です。中国では乳児が5人亡くなって、患者が6000人とも言われています。逮捕者が18人出ています。しかもこれは

オリンピックの最中に分かっていたようですが、オリンピックが終わってから問題が明るみに出ました。

このような問題が 2010 年までにポツリポツリと出るでしょうが、決定的なものは 2010 年を過ぎてから、「実は・・・」となるのだと思います。先ほど「温・良・恭・儉・讓」と言いましたが、論語のこういう教えを勉強しておく、日本も中国も変わるのではないのでしょうか。更にはアメリカもそのものも相当変わるのではないかと思います。

アメリカの場合は、日本より更に酷い拝金主義が蔓延しています。お金があれば何でも出来る、カネ・カネ・・・の世の中になっています。今回のリーマン・ブラザーズの破産、証券業界の上位 5 社が皆総崩れで、3 社が淘汰されてしまいました。上位 2 社はお金を出して貰って他社の傘下に入りました。とにかく皆従来の形態ではなくなってしまった状況です。アメリカの金融界が、サブプライムローンで滅茶苦茶になっています。

なぜこのような状況になったか考えると、お金があるからよくないのではないかと思います。一所懸命働いて、自分の働いた分だけ稼いだというものであれば良いのですが、まるでマネーゲームです。金で金を、賭けのようなもので扱うわけです。金が金を生むような、人間としておかしい状況になって来ています。アメリカは今、現実に坂道を転げ落ちています。今後どんどん加速されると思います。坂道をリーマン・ブラザーズのような小さな雪だるまが転がって、その前に証券会社 2 社があり、A I G という大きな雪だるまも転がり出しました。これからもっと出てくるでしょう。

アメリカ政府はリーマン・ブラザーズを救済しませんでした。軽く考えていたようです。財務長官が問題の会議に出席するのに、着替え一つ持って行っただけだと云います。「政府は公的資金を投入しません」と一言言えば会議が終ると思っていたのですが、実際には 3 日間もかかった。会議に対する考え方がアメリカはもう歪んでしまって、狂ってしまっています。その結果として、今の金融のショックが起きているのだらうと思います。

これは大きな火山が爆発したようなものですから、余波が世界各地に広がって、当然日本にも津波が押し寄せて来ます。

日本が津波に飲み込まれたら、三度のご飯は食べられなくなると思います。氣になったら、インターネット等で昭和 21 年 2 月 17 日付けの新聞とネバダレポートを調べて下さい。

六十数年前の日本はどういう状況だったか・・・。ご飯はまともに食べられませんでした。私の家内の母がお腹が大きい時に、ヤミ米を買いに行った時代です。ヤミ米をお腹に抱えて帰る途中、列車に警官が乗ってきてチェックをするわけです。その時に母子手帳を見せると通過できたそうです。又、地方から都会に転入することができませんでした。(都会地転入抑制緊急措置令) お金は銀行に預けさせられて、日々の生活費以外は下ろせなく

なりました。(金融緊急措置令) お金持ちには富裕税をかけて丸裸にしてしまうような時代です。それが六十数年前にあったのです。

アメリカ発の金融危機が日本に襲ってきたら、六十数年前のような状況が、もう目の前に来ているのだと思います。その時を生き抜くのに、「もっと、もっと・・・」と欲しがっていたのでは生き残れません。足るを知る心で、「ほどほどに」が良いと思います。ほどほどに出来るかどうか、これは考えものです。

実際に津波がどの程度か、金額を申します。テレビ朝日はリーマン・ブラザーズの社債を10億円持っているようです。地方銀行では、紀陽銀行が71億、北洋銀行が51億、福岡フィナンシャルグループが439億です。皆さんご存知の通り大手の銀行では、三井住友が確定した損失は100億、三菱UFJが244億、りそなが200億、みずほが118億です。これくらいのものが今、発表されています。しかし現実に表面化したら、こんなものですむはずがありません。

リーマン・ブラザーズの場合、日本国内にある預かり資産が1兆2000億円です。日本のリーマン・ブラザーズの関連会社を入れると、3兆4000億円の負債だと報道されています。見当も付かない数字です。何兆という負債が表面化してきたら、普通の会社や普通の家庭はその津波の中に飲み込まれる気がしますでしょう。

そうなると、どうしても自分自身の生き方・考え方をよく見直さなければいけない時期だと思います。自分の心構え・考え方を見直すべき時期、自分自身を見直す時期に来たと思います。

あなたの根っこは、広いでしょうか？

私の事務所の壁に、相田みつをさんのカレンダーが貼ってあります。今朝、改めてみたら良いなと思いました。

いのちの根 相田みつを

なみだをこらえて

かなしみにたえるとき

ぐちをいわずに

くるしみにたえるとき

いいわけをしなくて

だまって批判にたえるとき

怒りをおさえて

じっと屈辱にたえるとき

あなたの眼のいろが 深くなり・・・

いのちの根が、深くなる・・・

人間、あまり順調に行きすぎていたり、食べるものも順調に食べる事が出来すぎると、いのちの根っこは深くなるようです。苦しんだり、辛かったり、大変な思いをする。そういう時にじっと耐えていると、だんだん根っこが深く広がるのだと実感します。

今の日本の政治家はどれくらい根っこが深いのでしょうか・・・。そう考えた時に疑問が湧きましたので、国として根っこが深いか浅いかを見なければいけないと思い、一昨年と去年で、経済破綻をした国々を見て回りました。ロシア・アルゼンチン・ペルー・ブラジル・トルコに行きました。それらの国の経済破綻をした原因は共通していました。それは、人間の心の荒みです。具体的には、政治家と高級官僚の癒着で、国が潰れていました。

この前、駐日ロシア公使の方が「グルジア紛争に関して日本の首相は一言も言わない。一言も言わないという事は、肯定的に受け取ってくれている。だから日本はいい国だ。」という発言をしていました。まあ、なめられた事だと思います。今度ロシアは新しい首相になりましたから、どうなってゆくか、パフォーマンスが何処まで通じるか、お手並み拝見というところです。

経済破綻をした国々を回ってもう一つ感じた事は、皆、カネ・カネ・・・の国でした。では、そういうカネ・カネ・・・ではない国はないのか、と思って世界を見るとブータンという国がありました。国王がGNH（国民総幸福量）という考え方を打ち出していました。国民の幸福を量るには、その国がどれだけ稼いだかというGNPやGDPが基準ではない。その国の国民がどれだけ幸福だと思うか（GNH）である。幸福だと思う国民が沢山いれば、その国は良い国だ・・・という主張を、1974年にブータン国王が発言致しました。

ブータンは人口55万人くらい、九州より一回り大きな国です。お年寄りを大事にしています。宗教と政治が一体化していて、行って驚いたのですが、国会議事堂には最高権力者である国王の席と大僧正の席が並んでいました。ブータンは色々な意味で、研究すべき所だと感じました。江戸時代中期から末期にかけての日本人は、外国から、礼儀正しく躰もきちんとしている良い国だと見られていましたが、その頃の日本に酷似していると思いました。今後もブータンについて調べて、機会があればお話をさせて戴こうと思っています。

す。

世界全体を眺めてみると、カネ・カネ・・・にまみれてどうにもならなくなった国（いわゆる先進諸国といわれるところ）それから新興国はその後を追いかけていますが、それとは対抗する思想を持った国が生まれて来ました。それが今は小さな芽ですが、だんだん広がるのではないかと考えています。資本主義も社会主義ももう終りです。次に出てくるのは知足主義だと思っています。足るを知るという考え方で、一生懸命前に進んでゆく国・国民が生き残るのではないかと考えています。

ただ日本の今の状況を眺めていて、日本人が生き残るには、世界の人類が生き残るには、疑問符がかなりあります。それは何故か？・・・人間が増えすぎています。何か見えない力が働いて、<人類は増えすぎたから、地球を少し揺すって大地震でも起こして少し淘汰しよう。それでもだめなら伝染病を起こして、人間の数を少し減らそう・・・>と考えているのではないかと思います。新型インフルエンザもそうです。

私は、新型インフルエンザは99%感染すると思っていたのですが、最近では100%感染すると思っています。産経新聞に石原都知事が寄稿していました。

「日本の政府は甘い。日本は3200万人の人が感染し、64万人の人が死ぬと厚生労働省は発表しているけれども、これは甘い。先進諸国は感染者の20%が死ぬと予測して対応を練っているではないか・・・」という記事でした。

その後私は、国立感染症研究所研究員の岡田晴恵さんという方の講演を聞く機会がありました。国立感染症研究所の中で出された新しい論文の中で、東京都で新型インフルエンザが発生した場合、都民の66%は死ぬというシミュレーション結果が出ているそうです。しかも10代20代は、八割がた死ぬであろうとも言われていました。

これはやはり大変なものだと考えて新聞を注意して読んでみると、最近は大分動きが変わってきたと思います。例えばNECでは、感染が始まったら毎朝家族の体温を測って、38度以上の人がいいたら感染したとみなして社員の方は出勤停止。東京ガスでは、工場に勤める人は二交代制の泊り込みで移動を少なくし、他からの感染を防ぎ、営業や事務職の社員は自宅待機。イオンはフェーズ4になった段階で店舗を閉鎖し、外で対面販売の形式にして、ゴーグルやマスクを身に付けて接客に当たる。・・・といった対策マニュアルが出来ていると云います。かなり新型インフルエンザが身近な問題になって来ています。

いずれにしても今の人類は、生き残るのが大変な時代に入ったと思います。

本日は石川忠久先生をはじめ、斯文会事務局長、足利学校所長、北関東・東京フォーラ

ムの皆様、漢詩入門の会の皆様、足利学校の論語サークルの皆様・・・多くの方に参加戴き本当に有難うございました。また、実行委員長を務めて下さった北関東フォーラムの代表幹事と北関東フォーラムの実行委員の皆様、早朝から段取りして戴きました。有難うございました。

最後に、本日は論語の素読に始まり、石川忠久先生の論語のお話をお聞きしましたので、私の論語の学び方について御披露申し上げます。私は論語を読む時に、何でも構わずひたすら読みます。『素読論語』というテキストを5月に出版させて戴きましたが、これを読んで戴くと、「我ながら上手に読めた」と思えるのです。平仮名がついていますし、文字と文字の間が空いていますから、何処で区切れれば良いか分かります。ですからひたすら声を出して読むのが第一です。読んでいるうちに気分がよくなります。先ほど忠久先生は漢詩を陶然として読んでおられましたでしょう。そのように読まれるのが第一段階です。

その次に、ずっと読んでいると、自分の好きな文章が出てきて自然と暗記します。そうなれば第二段階です。

次の段階は、情景が目には浮かびます。好きな言葉を言うと、その情景がありありと眼前に浮かぶようになる。そこから先は調べたくなりますし、調べれば調べるほど又、好きになる。そして自分がその中に同化して行くような段階に入ります。

最初は読む事です。そして好きな言葉を見つける。そしてそれがイメージで目の前に浮かんで来る。そうなったらしめたものです。そのように論語をお読み戴くと良いと思います。

以上で、本日の私の講話は終了させて戴きます。有難うございました。